

事例

地域における産官学連携—寄付講座の開設—

～静岡産業大学～

☆本事例の中心

学長 大坪 檀氏

☆連携の構成

大学、県、市、産業界

事例内容

【概要】

静岡産業大学では、地域の協力を得て、多数の寄付講座（冠講座）を授業科目として開設している。平成13年度に初めて実施された寄付講座は、23年度現在、34講座に及び、質、量ともに全国に誇るものとなっている。

授業はシラバスに従って、全15回の正規講座として実施され、学生は2単位を取得できる。また、地域の一般社会人の方にも無料で公開されている。

寄付講座というと、理系、大学院を対象とした研究色の強いものをイメージしがちであるが、同大学は、経営学部、情報学部の2学部、大学院は設置していない。

地方都市にあって、「小粒だがキラリと光るユニークな存在」を目指す同大学の寄付講座について紹介する。

【背景】

静岡産業大学は、平成6年、静岡県、磐田

市、藤枝市、県内有力企業と多くの市民の支援の下に誕生した。静岡県、地域社会のために貢献しうる有為な人材を育成、輩出することを付託された公器であること—これが同大学の基本精神である。この基本精神を、目に見える形で共有できるようにしたものが、「県民大学宣言」である。

県民大学としてのミッションの実現の一つが、地元の産官学民の協力を得ての寄付講座の開催である。

【取組内容】

同大学の寄付講座は、「講師はすべて企業側の人材」「資金負担もすべて企業側にお願いする」というスタイルである。本学教員の教育研究に寄付金をいただくスタイルではない。企業と同大学との間で交わす覚書には、人件費や旅費をはじめとする、講座開催にかかる一切の経費を企業側が負担することが明記されている。学長大坪檀氏曰く、「無料だからこそ実施するのです。赤字、黒字という収支の概念がありませんから、専用の基金

県民大学宣言

- 1 静岡産業大学は、静岡県、磐田市、藤枝市、県内有力企業と多くの市民の支援の下に誕生し、静岡県、地域社会の為に貢献し得る有為な人材を育成、輩出することを付託された公器であることを常に念頭に置き、高水準の先端的な教育研究活動を展開します。
- 2 静岡産業大学は、大学の有する人材、教育力、研究力、知識、情報、アイデア、施設を広く提供し、静岡県、地域社会の発展に積極的に貢献します。
- 3 静岡産業大学は、静岡県、地域社会の発展に必要な知識、情報、アイデア、新産業の創造に積極的に取り組みます。
- 4 静岡産業大学は、産官学民各層の連携のもとに協力し合いつつ行動します。
- 5 静岡産業大学は、県民や、地域社会の住民が誇れる大学、“東海で小粒だがキラリと光るユニークな存在”になるよう常に進化、発展に努力します。

も必要ありません。複雑な事務処理もありません」とのことである。その言葉通り、寄付講座を取り仕切るための専門の事務部門は設置されていない。必要が無いのである。

講師となる人材の獲得は、大坪学長の役割である。設立経緯の事情もあるが、同大学は県や市に設置される委員会等の委員を多く委嘱されている。大坪学長は、そうした会合を、寄付講座勧誘の絶好のチャンスと捉えている。隣席の企業経営者、団体代表者等に、「わが大学で寄付講座をしませんか？」と積極的に声を掛けるのである。

「大坪学長のように、人脈があればこそできることなのでは？」とお尋ねしたところ、大坪学長からは次のような答えが返ってきた。「学長ともなれば、多方面の会合に顔を出しているはずです。また、そうでなければ、学長とはいえません。社会のニーズを常日頃聴くのが学長の務め。人脈は常にあるものです」ときっぱりおっしゃった。

こうした経緯から、寄付講座を募集するための宣伝活動は特に行っていない。ホームページ等にも「寄付講座募集」の宣伝文句は無い。これまでのところ、すべての寄付講座は学長の声掛けがきっかけとなってスタートしており、企業側からの発意による寄付講座の申し込みは無いとのことである。このことも、寄付講座に係る事務のシンプルさに貢献している。

大坪学長が、声掛けの時点で企業に依頼することは「最低3年は続けてほしい」ということである。リーマンショックなどの外的要因によりやむを得ず1年で終了した講座を除き、ほとんどの講座は継続的に実施され、人気を博している。

なお、声掛けの‘秘策’についても伺うことができた。「寄付講座をすると、大金をかけずに、御社の人材育成をすることができます。人材研修の場として、本学で寄付講座をしてみませんか」というものである。実際に、講師を務めていただいた企業人からは、「大学生に理解できるように講義することで、自分の業務そのものを整理することができた

し、論理の組み立て、プレゼンテーションのあり方も見直すことができた」という声が多く聞かれているとのことである。寄付講座のメリットは、大学側だけでなく、企業側にも大いにあるということを積極的に伝えるのがポイントといえる。

寄付講座に関し、教務面での手続きもいってシンプルである。寄付講座のための特別な委員会組織、規則等は無い。教授会の承認を得れば開設することができる。意思決定が迅速かつ機動的である。

企業から迎えられた講師は「非常勤講師」の発令をもって授業を担当することになるが、その一人ひとりに、本学専任教員がサポート役としてつき、アドバイスをを行う。例えば、教授する科目の対象学年に対して内容が高度になりすぎていないか、等の内容の確認・調整などをアドバイスするのである。

経営学部の冠講座

ヤマハ発動機	製造業の機能を「研究・開発」「製造」「販売・サービス」の3つに分けて解説。工場見学や経営トップの特別講義も実施します。
スズキ	繊維の会社として創業し、二輪車、四輪車と展開を図ってきたスズキの歴史と、厳しい環境下での今後の取り組みについて学びます。
ブリヂストン	「企業の国際化」をテーマに、ブリヂストンの国際化の歴史と戦略を紹介。企業の姿を学び、進出した各地域市場の知識を習得します。
浜松ホトニクス	光技術のトップメーカーによる講義。光技術と産業の姿を見ながら、世界の最先端技術をわかりやすく解説いただき理解を深めます。
ジュビロ磐田	「ニュービジネスとしてのプロスポーツ」をテーマに、プロスポーツ運営についてグループワークを中心に実践的に学びます。
磐田信用金庫	信用金庫の仕事の紹介を通して、地域で果たす役割を紹介。さらに社会人になったときに役立つ金融取引の基本知識も身につけることができます。
中部電力	日本を取り巻くエネルギー・地球環境の保全などの課題を総括。持続可能な社会構築のための様々な取り組みを学びます。
静岡県環境再生医の会	「環境再生医」の資格取得者による講座。自然保護・生態系保全の専門家とともに、環境再生の理論と実践的な保全の方策を探ります。
静岡県経済産業部(健康ウエルネス)	静岡県が取り組んでいる「健康長寿」と「青少年の健康増進」に関する政策を紹介。スポーツ科学に基づいたトレーニングマシンも体験できます。
静岡県経済産業部(農林大学校)	県の産業部の職員などによる授業。県内の「ビジネス農業経営体」の事例を参考に、これからの静岡県農業のあるべき方向を考えます。
磐田市	キャンパスがある磐田市を題材として、磐田市の歩みと現状、果たすべき役割等について、市職員の生の声を通じて学習します。

情報学部の特講

だいいちテレビ	テレビは斜陽産業なのか？ テレビの担う役割とは？ 取り巻く環境の変化の中で、テレビはどうあるべきか、その現状と課題を学びます。
静岡銀行	具体的な業務内容を通して、金融機関経営の現状と課題や地域に果たす役割を学習。金融機関への就職を目指す人は必見の講義です。
シャンソン化粧品	シャンソン化粧品の誕生と歴史から、化粧品の持つ魅力とその役割などを学びます。女子バスケット部の話やメイクショーもあります。
藤枝ロータリークラブ	国際的奉仕団体のメンバーである経営者の方々から、業界・企業の具体例を交え、企業による地域・社会貢献についてお話を伺います。
藤枝市	税金から観光、環境、年金、福祉、防災、都市計画など生活に密接した藤枝市の仕事を紹介。市長の講義も予定しています。
SBS 情報システム	地方自治体、新聞放送、防災、セキュリティなど多彩な業務を紹介。国と取り組んでいるシステムの標準化等についても伺います。
TOKAIグループ	TOKAIグループは、トータルライフコンシェルジュ(TLC)構想のもと、暮らしの中のあらゆるニーズに即した総合的な事業を展開しています。エネルギーと情報通信などの多様なビジネスの世界についてお話しします。

☆成功のポイント

学校の存在目的が明確であること

以前、寄付講座の継続を躊躇する別の学校に、その理由を伺ったことがある。「手間ばかりかかって、効果はいまひとつなので…」というものであった。この話を大坪学長にぶつけたところ、「本学においては、寄付講座を実施すること自体が、本学の目的なのです。効果の有り無しの問題ではありません」との回答であった。

学校の存在目的が明確であるため、学校が行う活動の目的も明確である。活動の目的が明確であることから、経費、人材等について、いかに資源の調達・配分をすべきかの答えもおのずから導き出される。学校の使命をしっかりとわきまえ、ぶれないことが成功のポイントとなっている。

学長のリーダーシップと一体感

米国でMBAを取得、教育者・企業責任者の経験をもつ大坪学長の強いリーダーシップのもとに同大学は運営されている。着任後、大坪学長は、理念とミッション、教育目標を明確にあらわして、教職員が全学一体となって目指す方向を示した。

「本学で自分の持つ潜在能力、個性に点火ス

イッチを入れ、大化けしてほしい」— “大化け教育” が本学の目指す教育の原点である。キャンパスを訪れると、この目標の達成に向けての教職員の一体感ある熱気が伝わってくる。教職員が、義務感ではなく、ポジティブに創意工夫を楽しんでいる様子は、FD、SD 研修等に如実に現れている。

理念、ミッション

理念

- 1 「東海に静岡産業大学あり」といわれる、小粒だがキラリと光る個性ある存在になる。新しい大学を創造し、大学の新しいモデルとなる。
- 2 豊かな教養と、高潔な倫理観、人間愛、社会に対する広い貢献意識を備えた職業人、社会のリーダーの育成に努める。21世紀の産業社会と国際社会の求める専門的職業教育を推進することに徹する。

ミッション

- 1 時代の先端的教育を行うことを第一義的な使命とする。そのために先端的な水準の研究を行う。教育の品質と生産性を重視し、教育の質を保証する場とする。入学するには易しいが卒業するには難しいとされる大学を目指す。
- 2 自由、自主自立、自己責任、自己管理を尊重するとともに、積極性、チャレンジ精神を重視し、行動とボランティア精神を求める。公平さ、フェアネス、合理、人間愛を常に判断の基準とする。
- 3 学ぶ学生の能力を偏差値に求めず、偏差値では測定できない個々の学生の潜在能力を引き出し、開発することを重視する。個々の学生の夢、志が達成、成就できるよう支援、サポートする。
- 4 教員には教育のプロに徹することが求められる。少人数教育、個別指導をモットーとする。
- 5 新しい教育法、教育内容、教育水準により本大学の社会的地位を確立する。
- 6 地域社会の発展に寄与する教育、研究、情報、アイデア、サービス等の提供を通じて広く社会貢献を行う。社会一般と積極的にかかわり地域と住民、産業とともに発展、成長することを目指す。
- 7 人種、国籍、性、宗教、年齢等をベースにした制度、支援策、教育、評価などを導入しない。
- 8 教職員、学生全員が本学に属することに誇りを抱き、各自が高い質の生活と人生を享受できるよう互いに努力する。

大坪学長との会話で、一番多く出てくる単語は、「Happy」である。大学を牽引する大きな力は、学長の強いリーダーシップであるが、その根底には学長の「人間力」が感じられる。上記「理念とミッション」のミッション 8 は、教職員の誇り、人生の質に踏み込んで言及しているが、これは「言うまでも無い」という理由から、存外見落とされがちなポイントではないか。「Happy」という言葉を日常的に学長から見聞きすることが、全学一体の信頼感となって、目標の共有、実践を支える要素となっている。



大坪学長と大化けマスコット

な研究を行う医歯理工系の学問分野にちがいない」「高度な内容を求められるのだから、大学院でないと企業は相手にしてくれない」などの固定観念を抱いている学校は少なくないようである。しかし、寄付講座というのは、授業の開設形態の一つにすぎない。文系であっても、学部レベルであっても、メリットを享受することは実は難しいことではない。

是非とも多くの学校に挑戦していただきたい。

シンプルな意思決定ルート・組織

本学の寄付講座は、学長の強いリーダーシップを基軸に運営されている。ミッションがしっかりと共有されていることから、学長と教職員間の信頼は厚く、意思決定に費やす合議の時間は少なく済む。規程に縛られての手続きに翻弄されることも無い。

★今後の課題

寄付講座を維持・発展させていくためには、本学の理念、ミッションに共感していただき、大学とともに社会に貢献してもらうための体制を作ることが重要になっている。そのためには、大学側もそれ相応の心構えを持って企業・団体との間に良好な関係を築くための努力をしていくことが必要であり、それは今後の課題にもなっている。

◎今後の方向性

概要で述べたように、寄付講座というと、「企業が求めるのは、実証実験を伴うような先進的